

年度	2026年度
試験日	2026年2月19日(木)
学部	教育学部
入試制度	一般選抜(C方式)
試験科目	英語(英語英文学科)

### 出題意図及び解答例(解答のポイント)

#### 【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

#### ■出題意図

早稲田大学教育学部の一般選抜では、①教科に関する確かな基礎学力と②「教える・伝える力」の基盤となる論理的思考と言語運用に関する能力を評価・判定する。英語の出題範囲は、英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ、論理・表現Ⅲである。

#### I. 読解問題(Passage A・B)

本設問は、同一テーマ(今年度は大英博物館所有の古代ギリシャ彫刻をギリシャに返還すべきか否かという問題)について立場の異なる二つの英文を提示し、受験者が英文の内容を正確に理解できているかどうかを測定することを目的とするものである。

選択式問題を通して問うているのは、文脈の中での語の含意の把握、段落ごとの主張展開の理解、筆者の立場・態度の読解、反論・反駁や論証構造の把握、文章全体の論理構成の理解といった総合的な読解力である。

特に本問題では、両パッセージが同一テーマを扱いながらも、明確に対立する立場を取っている。そのため、各筆者の主張の根拠、論理展開の方向性、価値判断の基準を正確に読み取れているかが重要な評価対象となる。したがって、解答にあたっては、個々の文の意味のみならず、段落間の論理的連関や、筆者がどの主張を支持し、どの主張を退けているのかを踏まえることが求められる。

#### II. 日本語論述問題

本設問は、Passage Bの筆者の主張を、180～250字という限られた字数の中で簡潔に要約する能力を測定するものである。

ここで問われているのは、与えられた英文の内容を正確に理解する読解力、文章の中から主張の核心部分を抽出する要約力、理解した内容を過不足なく日本語で表現する記述力である。

特に重要なのは、筆者の主張とその根拠を峻別し、論旨の中心を的確に押さえることである。細部の事例や補足説明に偏ることなく、筆者が最終的に何を主張しているのかを明確に示すことが求められる。また、字数制限の中で簡潔かつ論理的に表現できているかどうかも評価対象となる。

### III. 英語論述問題

本設問は、提示された主張に対して自らの立場を明確にし、構成の整った英文で論述する能力を測定するものである。特に重視しているのは、英語ネイティブ向けの高度な英文の内容を正確に把握できているか、その内容を適切に引用しながら、自身の議論に組み込んでいるか、賛否を明確に示し、論理的に一貫した段落構成ができているか、自らの主張を支える理由づけが明確であるか、学術的文体にふさわしい英語表現が用いられているかといった点である。本設問は単なる意見表明を求めるものではない。与えられた英文を踏まえ、それを批判的に参照しつつ、自身の立場を論理的に構築する力を評価することを目的としている。引用は必要最小限でよいが、単なる抜き書きではなく、自身の議論に有機的に組み込まれていることが重要である。

#### ■解答例（解答のポイント）

I.

Passage A 1.b, 2.d, 3.c, 4.b, 5.a, 6.b

Passage B 1.a, 2.d, 3.b, 4.a

II.

エルギン・マーブル返還問題をめぐり筆者は、当時オスマン帝国の許可を得て公然と搬出されており「略奪」ではなく破壊からの「救出」だったと主張する。さらに彫刻に単一の真正な「ギリシャ性」はなく、意味は時代や立場により変わる以上、大英博物館で世界文化と並置される意義も大きいと論じる。返還は植民地責任論や奴隷制賠償要求などの政治的主張を強め、英国を不当な請求にさらす恐れがあると警告する。（190文字）

III.

問題の性質上、一義的な解答例を示すことが出来ないため、解答のポイントによって代替とする。

解答のポイントは、出題意図に記載の通り、与えられたテーマに関して本文を参照および引用しつつ、自分なりの考えを論理的に構築し、構成の整った英文によって表現することが求められる。